

大槌・台湾アートまちづくりプロジェクト 第1プロジェクト 報告書



大槌・台湾アートまちづくりプロジェクト 2013.8 希望の夏

台湾から「白屋」とアーティストがやってくる！
大槌の高校生や市民と共に
アートを創作し、大槌町の未来の絵を描こう！
多くの出会いや交流が生まれることを願って

水産小屋「白屋」は、台湾を出発し、石巻まで出て大槌へ

5月、石巻での白屋アート創作、台湾と日本のアーティスト約40名が作品を作り、多くの出会いが生まれました

大槌の後は神戸を拠点として再び台湾へ

大槌高校復興研究会のメンバーと一緒に大槌町の写真で未来へのメッセージをつくりましょう！

フォトモザイクは細部の写真を貼り合わせで一枚の絵を作るアートです！

From KOBE 大槌町復興支援ネットワーク事業

台湾から NGO を中心としたスタディーツア一行が大槌を訪れる計画です

主催 大槌・台湾アートまちづくりプロジェクト実行委員会
共催 新台湾交流協会 新緑部文化促進会 台湾復興支援協会
協賛 神戸文化復興協会 台湾紅十字会
会場 大槌町

会場
「おらが大槌夢広場」
新緑広場
【目みどり幼稚園前】
大槌町大槌第23
地割字苑山 37-4

連絡先
おらが大槌夢広場 0193-33-3120
一般参加歓迎

台湾 NGO 訪問団
9月予定



2013. 8. 31

大槌・台湾アートまちづくり実行委員会

大槌・台湾アートまちづくりプロジェクト
第1プロジェクト 行程表

	活動	備考
8月4日 (日)	7:04 台湾組 夜行バス到着 民宿チェックイン・休憩 10:00 「おらが新拠点」へ集合(台湾、神戸、大槌) 会場確認、用品購入、第1回下塗りなど 2:00 工作会議・実行委員会(おらが復興食堂) 「白屋組立」・「創作活動」の進め方の基本確認 4:00 準備作業 (会場準備、第2回下塗りなど)	
8月5日 (月)	10:00 开幕式及び打合せ(作業の確認) 11:00～17:00 「白屋組立」・「創作活動」	
8月6日 (火)	9:00～17:00 「白屋組立」・「創作活動」 14:00～14:30 大槌町長訪問	
8月7日 (水)	10:00 「白屋組立」・「創作活動」 完成作品を白屋に貼り付け作業。後片付け 15:00～17:00 完成式及び茶話会 18:30 祝賀交流会(おらが復興食堂) 20:50 台湾組 夜行バス出発	

大槌・台湾アートまちづくりプロジェクト 第1プロジェクト活動記録

8月3日 大槌入り

神戸組の先発である私は、3日大槌へ向かう。夕方5時30分におらが大槌夢広場の事務所に到着し、早速総務の上野拓也さんと今回プロジェクトの概略の進め方を確認した。おらが大槌夢広場は、震災を契機に町民や専門家で立ち上げた組織だ。「復興食堂」の運営、「大槌新聞」の発行など、外部への情報発信、地場産業やツーリズムの活性化、町民の起業独立支援等に取り組んできた。

今回、このおらが大槌夢広場の協力・協働が無ければ、白屋を大槌に巡回することは不可能だったろう。現在おらが大槌夢広場の拠点になっているところは、復興区画整理事業の区域内にある。いよいよ本格的に事業が始まることになったため、ここを立ち退かなければならない。区画整理事業区域外に新たな拠点の土地を借り、整地をしてプレハブ2階建ての事務所を建てたばかりであった。6月白屋活動の場所を探すため、おらが大槌夢広場の理事・事務局長の臂徹さんを訪ねた時、秋には本格的に新拠点に移る予定だが、それまでは新拠点を白屋の活動に使って貰っていいという提案をいただいた。その結果、一気に白屋を大槌に巡回する計画が動き出したのである。



会場となるおらが大槌夢広場の新拠点

一方、台湾勢もこの日日本へ向かっていた。今回、大槌へ来る台湾チームの日程や人数は、二転三転した。結局、飛行機の団体チケットが取れず、アーティスト2名（林純用さん、廖珮如さん）と工作班2名（葉哲岳さん、黄萬春さん）、合わせて4人になった。午後成田空港に着き、上野発の夜行バスで大槌へ向かうという強行軍だ。上野駅で味噌ラーメンを食べている様子がFBで確認できる。早速「いいね！」を返す。「明日朝、大槌で会いましょう！」



上野駅の味噌ラーメン

おらが大槌夢広場を辞したあと、昨年壁画制作の現場となったカリタス大槌ベースにも立ち寄る。当時のベース長だった古木神父は、すでに今年4月から長崎教区の仕事に戻っておられる。新しいベース長川口茂さんが折よくおられた。昨年のこと、今年のこと、しばし語り合っって宿へ向かった。

8月4日 台湾組到着 時間を惜しんで準備作業

7時4分に着く高速バスに間に合うよう、タクシー2台で迎えに行く。ほぼ定刻に到着したバスから4人が降りて来る。林純用さんは、石巻の壁画活動に2回参加したが大槌は初

めて、一方昨年大槌で壁画を描いたメンバーの廖珮如さんは1年ぶりの大槌だ。葉哲岳さんは一度大槌に来たことがあるが、黄萬春さんは初めて。昨日の早朝からまるまる24時間の長旅で、さすが疲れは隠せない。さっそく宿の六大工へ、しばし休息を取った。

10時には会場となるおらが大槌夢広場の新拠点へ。関係者が集まって現場の状況や白屋建設の方針を確認することになっている。ここは沢山地区といわれる地域の一郭にある民地だ。敷地は碎石敷きが施され、新たな事務所となるプレハブ2階建てが既に建ちあがっている。また、敷地の一郭には、少し以前から新生おおつちの事務所が建っている。繁华な場所ではないが、近くに復興商店街「きらり」があり、旧みどり幼稚園の隣接地といえれば大槌の人達には誰もが了解できる。また、ここから少し高台の方には、今回共同で活動する大槌高校があり、願ってもない場所といえる。

定刻に、おらが大槌夢広場の上野さん、このあと4日間の通訳をお願いする村上佳智恵さんも到着した。早速工作班は白屋の建設位置の検討に入る。敷地内に一部コンクリート舗装された部分があるかどうかということだったが、水路に近すぎ危険なのでもう少し内側に置くことになった。ただし、この場合20センチの高低差が生じる。5本の筋掘りが必要となる。地面は碎石で敷き固めたせいか、かなり硬かった。満足な掘削工具が無い。敷地内に立てかけてあった錆ついた農具のようなもので試したが、なかなかかどらない。上野さんに電話して何か適当な工具は無いかと依頼する。翌日朝、つるはし2本を届けていただいた。

一方、アーティスト達は作画の準備にかかる。2階建てのプレハブの内部は、床がリサイクルベニヤのため多くのステープルが刺さっていて使えないのではと懸念されていた。確認すると心配するほどのことはなく、内部で十分作画ができる。ひと安心だ。早速シナランバーベニヤ(12mm×1220mm×2430mm)8枚を室内の壁に立てかけ、第1回目の下塗り作業に取り掛かった。一方、ホームセンターへ行って、明日から始まる作画の用具を購入する必要がある。一息入れる間もなく、お昼が過ぎてしまった。

復興商店街キラリで昼食を取った後、カリタス大槌ベースを訪れる。1年ぶりで壁画「希望の樹」と「希望の虹」に再開した廖珮如さんはやや興奮気味、建物の内部や外部をさかんに歩き回っている。この建物も区画整理事業の為、間もなく取り壊される予定だ。そして、カリタス大槌ベ



白屋の位置決めをする葉さん(右)と黄さん



「希望の樹」の前でジャンプする廖さん

スも別の場所に移転することになる。壁画が消えるのは一抹の寂しさがあるが、復興が進んでいく証左でもあるのだ。

2時から工作会議を開く復興食堂へ既に到着した大槌高校の佐々木先生から確認の電話がかかる。急いで復興食堂へ。神戸から被災地市民交流会の石井さん、神戸大学の学生澤井さん、阿部さんもここで合流した。おらが大槌夢広場の上野さん、台湾の林さん、廖さん、葉さんを加えて工作会議が始まった。互いに紹介し合った後、大槌高校の佐々木先生から生徒さん達の参加人数や活動時間が説明された。柔道部、美術部、バドミントン部、そして一般の生徒さん達、約40名が参加してくれるという。台湾のメンバーも日本の若い人達とのコラボレーションに期待が膨らんだ。

続いて壁画創作のやり方に話題を移す。4枚のパネルを一つの大画面にして、8枚のパネルを二つに分け、それぞれのアーティストが一つずつを担当することにする。林さんは花をテーマに、廖さんは魚やチョウをテーマに構成したいと提案した。そして生徒さん達も自分の好きな花や魚を描き込んでいく。台湾と大槌、個性と個性が混じり合っって一つの画面を作り上げるというわけだ。



創作方法を提案する廖さん

工作会議が終わって明日の地鎮祭の品物を仕入れに隣接するスーパーへ行く。「あれっ、藤田先生や！」昨年の壁画からお世話になり、今回の準備段階でも尽力いただいた美術部担当の藤田先生に偶然出会ったのだ。この8月から産休に入られていたのだが、ここで出会うとは。これは、幸先のいい偶然に違いない。

もう一度現場に戻り、筋掘りや2回目の下塗りなど明日のスタートに備えて、7時頃まで作業を続けた。

8月5日 さあ、今日から

8時に現場着。開幕式の10時までにはすべき準備にかかる。基礎の筋掘り、軸組み組立ての為の準備、プレハブ2階の窓に「大槌・台湾アート会場」の文字貼りなどである。この時、おらが大槌夢広場から聞いてボランティアをしたいという一人の青年が現れた。妻の実家が大槌で盛岡在住の鈴木宏弥さんだ。もちろん歓迎。彼は最後の交流会まで一緒に付き合ってくれた。

10時前になると高校生たちが現れる。そして佐々木敬之先生をはじめ、やはり柔道部顧問の藤原駿先生、バドミントン部顧問の山川治先生、そして美術部顧問藤田先生の後任新沼悠太先生である。ぐるっとおおつち小向幹雄代表理事も顔を出していただいた。まずは、石巻か



まずは記念撮影。「大槌サイコー！」



台湾式地鎮祭

ら恒例になった掛け声「大槌サイコー！」で記念撮影。その後、台湾式の地鎮祭をすませ作業を開始した。

高校生たちも白屋建設班と壁画制作班に分かれる。白屋建設班の最初の作業は、まず石巻から運んできた台湾や日本のアーティストの作品を収納箱から取り出して、会場内に立てかけて虫干しすることだ。絵が並んでいくと野外展示会場のように華やかになる。一方の壁画制作班はさらに林さん組と廖さん組に分かれ、どんな絵をか



野外展示会場のような

こうかと下書きを囲んで相談が始まる。そして、小一時間も経たない間に、本番のパネルを前にそれぞれが筆をふるい始めた。



下絵を囲んで相談

白屋建設班は、5連の軸組みの組み立て作業にかかった。部材は既にねじれており、はめ込むのに苦戦する場面も。幾つか組上がったところで、いよいよ1連目の建て起こし作業だ。柱ごとにロープをくくりつけて引き起こす。一方柱を支える側は、引くタイミングで押し上げて行く。「いっ、あーる、さんっ」「いっ、あーる、さんっ」5回くらいでまっすぐ立ち上がる。垂直になったところで、今度は左右に位置を微調整。「右に5センチ」「左に1センチ」さらに「右に5ミリ」と、まあ、アバウトな作業だが、とりあえず収まっていく。続いて2連目を立ち上げる。そしてこの2連の軸組みを横桟で緊結したところで、今日の作業は終了。1日目でここまで出来たのは早いペースだと、台湾の工作班も満足げだ。ということで、「ご苦労さん、サイコー」



1連目の建て起こし

壁画制作班も順調に作業が進む。林さん組は、切り紙を利用して花の形を転写して彩色する手法を使っている。大小さまざまな花が画面を埋めていく。廖さん組の方は、それぞれが自分流の魚を表現しようと取り組んでいる。



早くも2連が立ちあがる。「サイコー！」

こうして第1日目は終了した。



8月6日 作業は佳境に

2日目、壁画創作班の作業は佳境に入ってきた。林さん組が描く花は次第に画面全体を覆うようになってきた。これまでは寝かせていた画版も、これからは立てかけて描くことになった。

廖さん組では魚の上には蝶々が飛び交う。廖さんの故郷、台湾埔里では今蝶々の保護運動に取り組んでいる。そして、こちらは立てかけていた画版を寝かせ、林さん組の切り紙の手法を取り入れて赤い魚を次々と転写していく。



佳境に入った壁画創作



一方、白屋建設班は前日に引き続き軸組の引き起こし作業だ。朝から順調に進み、11時頃には最後の5連目の建て起こしを始めることになった。丁度この時、大槌高校の山形守平校長や大槌高校 PTA 会長東梅守会長が姿を見せてくださった。5連目の綱を引く役もお願いした。そして、林純用台湾代表から、大槌高校のご協力に感謝して、芸術村の手土産黒砂糖を渡すことができた。

軸組みが立ちあがると、あとは高所作業になる。ローリングタワーを使って高所に部材を取り付けるのは台湾の専門家たちに任せ、高校生たちは下から材料を渡す側にまわる。こうして夕方には、白屋建設の山は越えたのである。予想以上に順調な出来上がりに台湾工作班も安堵の表情が浮かぶ。

なお、この日2時から台湾アーティストの林純用さん、廖珮如さん、おらが大槌夢広場の臂徹理事、被災地市民交流会のメンバーらで大槌町長を表敬訪問した。



大槌高校校長に手土産を渡す林さん



高所作業をする台湾工作班

敷地内には、震災後立ち上がったボランティア団体「新生おおつち」の事務所があり、今回の活動では電気、水道さらには手洗いをお借りするなど大変お世話になった。地元の松ぼっくりを利用し、「華ぼっくり」というコサージュを手作りして販売している。事務所の壁にこの「華ぼっくり」の絵を描いてほしいと台湾アーティストにリクエストがあった。喜んで引き受けた林さんらは、作業の合間を縫って二つの「華ぼっくり」を壁に描いた。



新生おおつちの壁に描いた「華ぼっくり」

8月7日 完成—安堵と達成感

今日はもう最終日だ。朝からほぼ描き上がった画版を白屋に貼り付ける作業に入る。貼り付けてみると隣り合う画版で微妙に絵がずれているところも目立つ。アーティストも高校生らも、修正したり、描き足したりの作業に余念がない。遠野まごころネットの白澤さんも立ち寄って下さった。

白屋の入り口や内部は、石巻で制作した作品の一部を取り付ける。最終段階は神戸組が自ら取り付け作業を進める様子を見て、台湾の工作组は思わず「神戸では、我々は不用了！」

3時までには、粗方の片づけも終わった。余裕が出てきたのか、最後まで付き合ったボランティアの衣服に廖さんが記念の絵を描く場面も。



いよいよ完成間近



完成した壁画の前で記念撮影

最後に記念撮影。「大槌高校サイコー！」そして、簡単な茶話会をして3日間の大槌・台湾アート活動第1プロジェクトは終了した。

台湾勢は今夜の夜行バスで大槌を離れる。まず、宿に戻り、シャワーを浴び、荷物を持って、6時30分から始まる交流会の会場・復興食堂へ向かう。復興食堂でしばし休憩する4人は、さすが疲れた表情ながら、安堵感と達成感がにじむ。今回の活動は実質3日間で、白屋建設と壁画創作を並走させるというハードな行程で、初めての試みだった。一つ何か狂うと、取り返すのが容易でない。とにかく無事終えることができた。



無事終了して、安堵の表情

定刻に最後のお別れ会が始まる。台湾勢に、大槌高校の先生方、おらが大槌夢広場の上野さん、ボランティアの鈴木さん、そして神戸勢が集う。出席者の労をねぎらった石井さんの乾杯で宴が始まった。今回の活動のこと、台湾のこと、東北のことに、話題は尽きない。台湾から北港にある廟のお守りが配られた。そうこうするうちに、バスの時間が近づいてきた。もう行かなければ、「再見！」



台湾の廟のお守りを手に、謝謝

最後になったが、この4日間通訳を務めていただいた村上佳智恵さん、ご苦労さまでした。彼女は大連出身で陸前高田に在住している。今回被災したのを契機に、中国語の通訳を起業したばかりだ。明るく活発な性格の彼女は、今回の活動を盛り上げてくれた。

最後、神戸勢で夜行バス停まで台湾勢の見送りに行く。最後まで手を振ってバスが暗闇の中に消えるのを見届けた。

今回のプロジェクトは、コンパクトではあったが、若い世代への継承というテーマにふさわしいものになったと思う。それは何より大槌高校生らの熱いコラボレーションがあったからだ。先生方、高校生みなさん、有難うございました。

(被災地市民交流会 垂水英司 記)

大槌・台湾アートまちづくりプロジェクト
第1プロジェクト 実行委員会

団体名	役職	
おらが大槌夢広場	理事・事務局長	臂 徹
岩手県立大槌高等学校	校長	山形守平
カリタス大槌ベース	ベース長	川口 茂
遠野まごころネット	副理事	白澤良一
新生おおつち	会長	越田 勝
まちづくり・ぐるっとおおつち	代表理事	小向幹雄
石巻・台湾アートプロジェクト実行委員会	実行委員長	西條允敏
被災地市民交流会	代表	垂水英司
From KOBE 大槌町復興まちづくり支援ネットワーク		川上 翔

大槌・台湾アートまちづくりプロジェクト

第1プロジェクト 参加者

敬称略

団体名	氏名	
台湾	林純用	アーティスト
	廖珮如	アーティスト
	葉哲岳	工作班
	黄萬春	工作班
おらが大槌夢広場	臂 徹	
	上野拓也	
岩手県立大槌高等学校（教諭）	山形守平	校長
	藤田さくら	前美術部顧問
	佐々木敬之	柔道部顧問
	藤原 駿	柔道部顧問
	山川 治	バドミントン部顧問
	新沼悠太	美術部顧問
岩手県立大槌高等学校（生徒）	岩鼻真那実	美術部
	藤井麗那	
	三浦留以	
	山田佳波	
	阿部華奈	
	黒沢菜緒佳	
	小林 咲	
	佐々木麻衣	
	中村美里	
	藤原有那	
	袈岩桃子	
	三浦晶子	
	横沢 萌	
	伊藤諒太	柔道部
	佐藤 陸	
	藤原元気	
	松坂大毅	
	古館笑海	
	佐々木悠斗	
	濱田凌太	

	吉田優作	
	佐藤花映	
	三浦早苗	
	水野日菜子	
	小笠原幸太	
	小林 優	
	三浦優雅	
	山崎 丈	
	佐々木郁美	
	黒沢胡楠	
	小松祐貴	
	中村朱里	
	畑中賢哉	バドミントン部
	伊藤健人	
	黒澤竜一郎	
	小林海嵩	
	佐藤雅也	
大槌高等学校 PTA	東梅 守	
カリタス大槌ベース	川口 茂	
	片岡英和	
	野田和馬	
遠野まごころネット	白澤良一	
	及川龍哉	
新生おおつち	越田 勝	
	新田左千夫	
ぐるっとおおつち	小向幹雄	
ボランティア	鈴木宏弥	
朝日新聞大阪本社	角谷陽子	
被災地市民交流会	垂水英司	
	石井 修	
	小林郁雄	
From KOBE 大槌町復興まちづくり支援ネットワーク	澤井浩臣	
	阿部真治	
通訳	村上佳智恵	